

月日	入院日 術前々日	術前日	手術日( / )		術翌日	術後2日~4日目	術後5日目	術後6日~ 日目	術後 日目	退院日
			術前	術後						
経過	入院や手術に関して不安があれば、遠慮なく相談してください	検査データを確認しながら、手術へむけて準備を行います。術前準備を行います	( )時に手術室へ移動します	術後は病室に帰ります	注意点を守りながら、少しずつ、日常生活のリズムを戻していきましょう	水分開始になります むせり・吐き気がないか	食事開始になります 少しずつ、よく噛んで、時間をかけて食べて下さい。			退院
目標		術前日の流れ ( )時~絶食 ( )時~絶飲食	朝起きてから手術に行くまでの流れ							外来受診について定期受診は必ず行なうようにしましょう。
検査	手術に必要な検査をします	□おへその周りの毛を剃ります おへそのそうじをします	□麻酔科医師の指示の内服薬があれば服用してください		採血・レントゲン写真	採血・レントゲン写真	必要に応じて採血・レントゲン写真			(退院まで)
処置	基本的に、処置はありません	□入浴 □点滴 □10時 } 下剤を服用します □14時 □腕に名前を書きます(医師) □準備品の確認をします	□前あきの下着、病院のジャマに着がえて下さい □弾性ストッキングをはいて下さい 弾性ストッキングは看護師側で用意します □化粧やマニキュアを落として下さい □義歯、めがね、時計、ヘアピン、指輪を外して下さい。家族の方に、貴重品を渡して下さい	点滴 心電図モニター 酸素吸入 尿の袋 繋がっている 胃の管	酸素と心電図モニターが終了します 尿の管と胃の管が抜けます	痛み止めの管が抜けます お腹に管が入っている場合主治医が抜きます		術後7日目に半抜糸 8日目に全抜糸します	以下の症状があるときは受診日以外でも来院してください。 ・腹痛がひどい時 ・排便、排ガスがなく、お腹の張りが続いている時 ・嘔吐が続き、吐き気がひどい時 ・黒い便が出た時 ・高熱が出たり微熱が何日も続くような時 わからない点、疑問点がありましたら、何でも医師や看護師にご相談ください。	
注射	基本的に、注射はありません	不安なときは、ポータブルトイレを用意します	不安なときは、ポータブルトイレを用意します				薬は正しく服用し、必ず指示通りに内服して下さい。緩下剤の内服については、便の回数や性状を見て調節して下さい。心配なときは医師に相談して下さい。			
内服	飲んでいるお薬は全て看護師にお知らせ下さい									退院時、必要な分のお薬が処方されます
食事		術後許可が出るまで、飲んだり食べたりできません		術翌日まで、3時間ごとに検温に伺います	必要に応じて、ポータブルトイレや尿器を用意します	初めて歩行する時は、看護師が付き添います。術後早期に歩き始めた方が、回復も早くなります。				職場復帰、旅行などは医師に相談して下さい
清潔行動	活動、入浴に制限はありません	入浴のときは…熱いお湯は体の疲労を伴います。長湯にならないようにしましょう。	病棟を離れるときは、看護師にお知らせ下さい。	痛み止めについて… ・点滴から痛み止めを注入する場合 ・背中に管を入れて痛み止めを注入する場合 いずれにしても、痛いときは我慢せずに教えてください	シャワーの許可出るまで体を拭きます	ドレーンが抜けたらシャワー可 傷の部分はこすらず、シャワーで流す程度にして下さい				
説明	病棟での日常生活をご案内します 手術の予定を説明します	麻酔科医師と、手術室の看護師の訪問があります								□次回予約票が渡されます □リストバンドを外します
腸の手術を受けられる方へ	スーフル呼吸訓練行って下さい 必ず禁煙して下さい	腸には、食品の栄養分が吸収された後の残渣物から水分を吸収し、便を作る働きがあります。手術によって腸の中に残渣物が留まる時間が短くなり、下痢の傾いたり便秘に傾いたり、排便の調節が難しくなっています。腸閉塞が起きやすい状態になっていますので、食生活に十分に気をつけて、排便調節をしていく必要があります。		食事について… 偏食をさけ、バランスのとれた食事を心がけて下さい。 以下の食べ物は、控えるかよく噛んで食べて下さい。 ・熱すぎたり、冷たすぎたりする食べ物 ・刺激の強い食べ物…香辛料・わさびなど ・消化の悪い食べ物…イカ・たこ・するめ・キノコ類・海藻類など その他 ・下痢になりやすい食べ物…冷たい牛乳・天ぷら類・アルコール類・アイスクリームなど ・便秘を予防する食べ物…野菜類・バナナ・プルーン・果物など		安静運動に関して… 適度な運動は、腸の血行を良くし、動きを活発にします。軽い散歩や体操などから始め、体を慣らして行って下さい。疲れたら無理をせず、休息を取って下さい。	便秘になったときは… ・腹部「の」の字を描くようにマッサージする。 ・水分を多めにとり、食物繊維の多い食品をとる。食物繊維の多い食品→パン・玄米・豆・芋類・果物・バナナなど ・下剤の乱用は慎む。	下痢になったときは… ・腹部の保温(腹巻き・ほっかいろう使用) ・脱水になりやすいので、水分を補給する ・暖かい消化の良い食べ物を摂取する。(お粥・煮込みうどん・葛湯・ヨーグルトなど) ・以前より下痢を起しやすかった食べ物は、術後も控える。 ・下痢止めの薬の乱用は慎む		

注1) 病名は現時点で考えられるものであり、今後の検査等を進めていくにしたがって変わり得るものです。  
 注2) 入院期間については現時点で予想されるものです。

上記内容について説明を受け同意いたしました

署名: \_\_\_\_\_ 続柄: \_\_\_\_\_

特別な栄養管理の必要性  
 有  無